

社会福祉法人ファミーユ高知だより

★ハビリの中庭で育った梅の実を、5月に収穫してシロップ漬けにしました。

2026年 春・夏号 No.51

発行所 高知ハビリテーリングセンター 印刷科

誰かを応援すること

この年になって、まさか自分が韓国アイドルの“推し活”にはまるとは思ってもいませんでした。きっかけは、とても熱心な先輩の存在です。その方の推しに対するまっすぐな情熱に触れ、さまざまな情報を教えてもらい、ついにはライブコンサートにも誘っていただきました。思い返せば、私が最後にコンサートに足を運んだのは30年ほど前、久保田利伸のライブでした。その後は日々の忙しさに追われ、何かに夢中になることから、いつの間にか距離を置いていたように思います。どこかで「はまりすぎてしまうのではないか」という怖さもあったのかもしれませんが、しかし、久しぶりに体験したライブの空気は、想像以上に強いものでした。会場全体が同じ方向を向き、一つの存在を応援している一体感。その中に身を置くことで、日常とは違う強い感情が自分の中に生まれてくるのを感じました。それは単なる楽しさだけでなく、「自分が何かに心を動かされている」という実感そのものだったように思います。推し活という言葉は、どこか若い世代の文化として語られがちですが、改めて考えてみると、人は昔から何かを応援し、誰かに感情を託しながら生きてきたのではないのでしょうか。それがスポーツであったり、音楽であったり、人であったりするだけで、本質は変わらないように思います。福祉や医療の現場では、どうしても生活を整えることや安全・安定に目が向きがちです。しかし実際には、人が前に進もうとする力の多くは、こうした「楽しみ」や「好き」といった極めて個人的な感情から生まれているのではないかと感じます。何かに夢中になることは、時にリスクとして語られることもあります。

一方でそれは、その人が生きるうえでのエネルギー源にもなり得ます。今回の経験を通して、私は「推し活」という営みの中に、人が人らしく生きるための大切な要素が含まれていることを実感しました。支援の現場においても、こうした一人ひとりの「好き」や「楽しみ」をどのように支えていくのか。そのこと自体が、これからより重要になってくるのではないかと考えています。少なくとも私は、今回の推し活を通して、そのように感じています。



高知ハビリテーリングセンター
センター長 西岡由江



社会福祉法人 ファミーユ高知



●高知ハビリテーリングセンター
〒781-0313 高知市春野町内ノ谷 63 番地 6
Tel (088) 842-1921 Fax (088) 842-2601

◇障害者支援施設

- ・施設入所支援事業
- ・短期入所支援事業（空床型/併設型）
- ・自立訓練事業（機能訓練/生活訓練）
- ・生活介護事業

◇アルパーテ

- ・就労継続支援B型事業
- ・就労移行支援事業（休止中）
- ・就労定着支援事業（休止中）

◇はるのハビリホーム

〒781-0313 高知市春野町内ノ谷23番地1
・共同生活援助事業



●しごと・生活サポートセンター ウェーブ
〒780-0056 高知県高知市北本町1丁目 8-7
Tel (088) 820-1221 Fax (088) 820-1223
◇就労継続支援A型事業「OWNパス」
◇就労継続支援B型事業「スウェル」

●法人本部

〒781-0313 高知市春野町内ノ谷 63 番地 6
Tel (088) 842-1921 Fax (088) 842-5010

障害者スポーツセンター

リレーマラソン

に参加しました！



1月25日障害者スポーツセンター主催のリレーマラソンに参加しました。1チーム6人で1人約2km走るリレーマラソン。今年度は入所の依光がキャプテンとなり、クリーニング科恒石さん、生活訓練井上くん、入所の野並さん、大上さん、渡辺くんと共に挑むこととなりました。メンバーの半分は走ることを何年もしていなかったため、マラソン経験者の恒石さんにアドバイスをいただきながら、仕事終わりにみんなでハビリの周りを走りトレーニングを積みました。当日は雪が舞う中、一人ひとりが限界に挑戦しました。37チーム中20位の結果でしたが、結果以上にみんなで頑張っ

た達成感でいっぱいでした。いくつになっても何かに仲間と一緒に挑戦するのはいいですね！応援・サポートして頂きました皆様、ありがとうございました。

生活・訓練部 依光みづほ



◎ 国土交通省社会復帰促進事業における当センターの取り組み ◎

当センターの自立訓練（機能訓練・生活訓練）では2025年度より、国土交通省が実施する社会復帰促進事業の補助対象事業者に選定され、1年間を通して取り組みを進めました。本事業は、自動車事故により高次脳機能障害を負った方の社会復帰を支援することを目的とし、医療から福祉そして就労等を含めた社会復帰へと切れ目のない支援体制の構築を目指すものです。

2025年度は医療機関との連携による退院後の受け入れ体制の強化に加え、地域の福祉事業所や就労先の企業と協働しながら、自立訓練の中で個々の障害特性に応じた支援の提供に尽力しました。特に高次脳機能障害のある方に対しては、回

復に向けたアプローチと生活・就労場面を見据えた実践的な訓練を重視し、社会参加に向けた支援の充実に努めました。そして、2026年2月26日には国土交通省で開催された実績報告会に参加し、1年間の取り組みと成果について報告を行いました。

次年度も引き続き補助対象事業者として選定されております。今後も関係機関との連携を一層深めながら、より質の高い支援の提供と地域社会への貢献に努めてまいります。交通事故の被害者の方に限らず、高次脳機能障害のある方の困難に寄り添い、社会復帰を支える取り組みを進めたいと思います。

生活・訓練部 島崎義広

笑顔DE捏ねて！踏み込んで！手打ちうどん作り

NHK 歳末たすけあい助成を利用し、手打ちうどん作り体験をしました。麻痺のある方でも自助具を使い生地を捏ね、伸ばし、踏み、切ることにも挑戦しました。生地を踏む時には、「〇〇さん、がんばって踏んで踏んで！」「もっともっと！」と利用者同士の掛け合いも聞こえ、職員が向けるカメラに満面の笑みを返す利用者の姿がたくさんありました。この日の訓練室では、「こんなにみんなで踏んだら、うんとコシが強くなるねえ！」「コシがうんとある！」「こりゃあコシが強い！」と利用者同士の会話の中に『コシ』というキーワードと、自然な笑顔が沢山飛び交っていました。

生活・訓練部 坂本裕子



実践を通じて学ぶ

「BCP研修」



3月12日と17日の2日間、法人必須研修としてBCP（事業継続計画）研修を実施しました。今回は株式会社中村防災サービス様に講師としてご協力いただき、南海トラフ巨大地震で想定される被害や当センターの備蓄状況などについて学びました。

また、非常食（アルファ米）や非常用トイレの体験など、実技も交えた研修は災害発生時にまず何をすべきか、そして何が必要かを具体的に考える機会となりました。今後も利用者・職員の安全を守るため、防災意識の向上に取り組んでまいります。

災害対策委員会 岡村敬世

ピンチを逆転に変えて

日曜日 早朝5時22分 火災表示機キュービクル異常アラート警報が発報し、電力会社より漏電や火災・停電の懸念について連絡を受けました。安全確保のため施設内ブレーカーを停止し、状況を確認。当時の外気温0.1℃と厳しい環境でした。その後、業者の点検により室外機の故障が判明しましたが、当日の復旧は難しく、利用者の皆さまが暖かく過ごせるよう代替ヒーターの確保に対応しました。上長自ら各大型電気店など数件回り、遠くは西の大型電気店に購入に向かい、必要台数を確保し対応いたしました。利用者の皆さまへの説明や設置作業が終わる頃には夕方になっていましたが、「こちらのほうが乾燥しにくくていいね」といった声も聞かれ、職員も安心したことでした。突然のトラブルではありましたが、迅速な対応と周囲の協力により、混乱なく乗り越えることができました。現在は再発防止に向けた点検を進めています。ご協力頂きました皆様には感謝申し上げます。

生活・訓練部 笠松早由



春祭り開催

～ひな祭り・ハビリ春のパン祭り・ダーラナホース～

春のぱん祭り

本年度の春まつりは、3月3日（火）～5日（木）の3日間にわたり『ハビリ 春のパン祭り』を開催しました。内容は、5ヶ所のチェックポイントにて色々なゲームに挑戦し、ゲームクリアごとにシールを進呈。シールをコンプリートした方には、10種の『選べるパン』から1つプレゼント！というものです。

コロコロチャレンジでは、ボールが入ったスポットごとに『大吉』『小吉』などのくじをプレゼント。カードマッチングでは、職員が出したカードとペアになるカードを選び、お雛様とお内裏様の顔出しパネルでは、職員と利用者が一緒に撮影したり…。ゲーム内容もパンも盛りだくさん。わくわくドキドキのイベントとなりました。

コロコロチャレンジでは、ボールが入ったスポットごとに『大吉』『小吉』などのくじをプレゼント。カードマッチングでは、職員が出したカードとペアになるカードを選び、お雛様とお内裏様の

顔出しパネルでは、職員と利用者が一緒に撮影したり…。ゲーム内容もパンも盛りだくさん。わくわくドキドキのイベントとなりました。



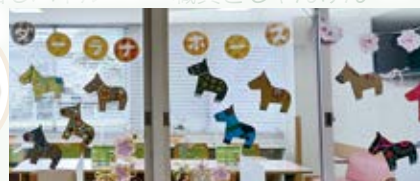
ひな祭り

毎年恒例！ひな壇を飾りました。来所された方から「きれいですね」との言葉をいただきました。



ダーラナホース作り

春まつりイベントの一環として、ダーラナホースを作成しました。ダーラナホースとは、スウェーデン中部のダーラナ地方発祥の伝統的な木彫りの馬の置物で、「幸せを運ぶ馬」として世界中で愛されるスウェーデンのシンボルです。もともとは冬の間に木こりが子どもたちのおもちゃとして作ったもので、馬が人々の生活に不可欠だったことから、幸運の象徴とされました。今回は段ボールをベースに、絵つけや飾りつけを自由に楽しんでいただきました。個性あふれるダーラナホースがたくさん出来ました♪



健康 就労継続・地域部 恒石美佐子・谷口茉耶

※台紙とシールは印刷科の利用者さんがデザインしてくださいました！

第一弾

Famille DX化推進中!

アナログ記録から

クラウド型支援ソフト導入へ

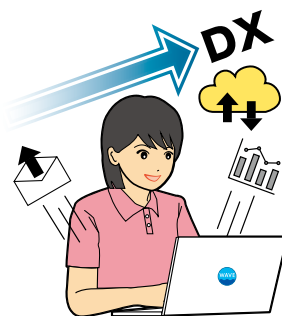
福祉の現場では、何よりも「記録」が重要です。私たちの一日は、朝から終業間際まで、記録に向き合い続けると言っても過言ではありません。ハビリではいち早く支援ソフトを導入していましたが、ウェブでは事業数の少なさや、自分たちで作上げたエクセルシートが最も使いやすいという、いわば小さなプライドもあり、なかなか導入には踏み切れずにいました。しかし現実には、シートの突然の消失、同時編集ができない不便さ、意図しない上書きなど、トラブルは少なくありませんでした。日々の業務の中で積み重なるこうしたストレスを前に、私たちは思い切って支援ソフトの導入を決断しました。

実際に使い始めてみると操作に慣れるまでは手間も感じましたが、これまで頻発していたトラブ

ルは解消され、印刷やファイリングの手間、過去記録を探す時間も大幅に削減されました。業務全体がよりスムーズでスマートなものへと変化した実感があります。これまでのやり方を大切にする姿勢も重要ですが、日々繰り返される業務においては、新しい手段を柔軟に取り入れることの価値を改めて感じました。

もちろん、高額な支援ソフトでありながら、自作のエクセルシートで実現していた細かな機能すべてを網羅できていない点や、実際に使用している機能が一部に限られている点には、多少のもどかしさも残ります。それでも総合的に見れば、今回の導入は確実に業務改善につながる一歩でした。今後も現場にとって最適な形を模索しながら、より良い支援の在り方を追求していきたいと考えています。

ウェーブ 沼 慶子



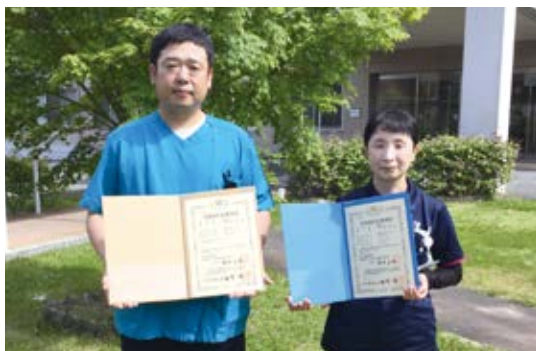
資格取得

2022年からサービス管理責任者として、利用者の相談支援業務に従事しており、その中で、専門的な理論を学ぶ必要性を感じ、通信制の大学で2年間福祉の基礎を学び、社会福祉士の資格を取得することができました。今後も現場での実践と理論をしっかりと結びつけ、より質の高い支援ができるよう精進していきます。

生活・訓練部 谷岡真代

まずは行ってみよう！と勢いで飛び込んだ実務者研修。現在の業務では支援の難しさや己の未熟さに思い悩む日々ですがやりがいを感じています。人生、勢いが大事なのかもしれません。あの時の決断が今回、介護福祉士の資格取得につながりました。一つずつ、着実に経験を積み重ねたいです。

生活・訓練部 前田悟史



就労へのチャレンジ

『七転八起』

職員コメント

いよいよ希望企業での就労体験を行う時期がやってきました。緊張もあるかと思いますが、持ち前のきめ細かさ、体力、爽やかさを活かして仕事のイメージを掴み、2年間の訓練で培った柔軟性と挑戦する心を大切にこれから大きく成長して欲しいと思います。

生活・訓練部 橋本竜太

生活訓練の卒業が間近となり2026年2月16日(月)～20日(金)に地元の企業で仕事の体験をさせていただきました。

段ボールに入っている物品を箱に入れダンブラというカバーを箱の上に置き右へ流す作業でした。初日はその作業内容があまり理解できず失敗もありましたが少しずつ覚えていき、2日目からは助言をもらわなくても一つ一つを理解できるように頑張りました。

気を付けていた事は朝礼前にアスレチックルームへ行きストレッチや少し懸垂をして体の調子を整えることです。失敗をしても落ち込むだけでなく、そこから学びもう一度挑戦するために「七転八起」(七転び八起き)という言葉が大事だと気付けたので、この5日間の仕事体験で良い機会になりました。

生活訓練 東 恭生

★ スズメ元気会 防災交流部会 ★

～障がい当事者と考える地域生活・避難生活～

令和8年3月3日（火）、西諸木公会堂にて、スズメ元気会 防災交流部会主催の「障害当事者と考える地域生活・避難所生活についての勉強会」を開催しました。今回の勉強会に至った経緯は、昨年の11月にハビリテーションセンター秋祭りでの防災ブース出展を通して、障害のある方との接し方に困る場面がありました。様々な方が集まる避難所生活を想定すると、事前に障害に対する理解や知識を深めておく必要があると防災交流部会で意見交換が行われ、今回の勉強会に至りました。

はじめに、高知ハビリテーションセンター西岡センター長より、災害時に障害者が置かれる状況や健康な人との違いについてお話していただきました。続いて、ハビリテーションセンターの利用者2名より、自身の障害と避難所生活で助けてほしい事、自分でできる事を発表していただきました。

発表内容（抜粋）

⑧ 災害の時に困りそうなことをお話しします。

⑧ まず、避難所のトイレが車いすで使えるのか、段差はないのか、とても不安です。荷物が持てないので、生理中だったら、自分に合ったナプキンがあるのかも心配です。お風呂も、足が不自由なので段差があると入れません。それに、私は動作に時間がかかるので、急ぐことができません。何もつかまるところがない場所で立ち上がるのは難しいです。高次脳機能障害のある人は本当にいろんなタイプがいます。人によって困ることが違うということを知っておいてもらえると、とてもありがたいです。

⑧ 最後にお願ひがあります。災害のときは、どうかゆっくり話してほしいこと。そして、何が必要なのか、まず聞いてほしいということです。でも、私たちも助けてもらっただけじゃなくて、できることがあれば何か手伝いたいと思っています。

機能訓練 OG 高橋聡美

防災部会に参加して



一緒に参加した方どうも有難うございました。避難先に持って行けるように袋に補助品を入れて置いておくように努めたいです。自分自身にも責任ある行為を自覚していかなければならない年齢になってきたのだなと思います。

海に雨むかい風にも震災日

就労継続支援 B 型 利用者 中澤 清


ハビリ・ウェーブ
利用者の夢がふくらむ


この度、私はウェーブで働き出して今年の5月で3年目になります。働く前、最初の頃は「障害者支援就労の仕事は頑張っている（できる）だろうか？」という不安が有りましたが、

ウェーブの職員や利用者に感謝して今では仕事にリラックスしてマイペースに取り組めるようになり、日々を過ごしています。毎朝5時に起きて夜7時に寝るまでの1日ですが、ウェーブで仕事を頑張って部屋でくつろいで寝たら、次の日に備えて体調を整えています。これからも仕事には前向きに作業に取り組んでいきたいので頑張ります。

スウェル 軽作業 利用者 岩谷和一



はじめて作業したのは軽作業1で作業をしました。ふうとうにシールをはる作業をしました。いろいろと職員さんに教えてもらいながら作業出来るようになりました。楽しかったです。教えてくれた職員さんありがと

うございました。

今はクリーニング科で仕事をしています。たたみ方も教えてくれました。今はだいぶ出来るようになりました。

私のゆめは、実績のこしてからしゅうしょくするゆめです。ハビリホームを出てからアパートをかりれるようにしたいです。工賃じゃなくてきゅうりょうがほしいです。一般ではたらける場所があればいいですけどね。

就労継続支援 B 型 利用者 富田千晶

日帰り弾丸バスツアー

3月のイベントでむろと廃校水族館の見学とシーグラスを使用するクラフト体験に行ってきました。高知県内ではあるもののスケジュールはカツカツで移動時間往復5時間、滞在時間2時間と移動時間の長い弾丸バスツアーとなりました…。グループに分かれ各々が自分の好きなアクセサリや雑貨をつくりました。シーグラスを本来であれば拾いに行くところスケジュールの都合もあり準備していただいた中から選び作成しました。みんな真剣に取り組み思い出に残る作品が作れたと思います。水族館の見学では足早に回り時間を持て余す人や、ゆっくり見て回りきれなかった人など様々



でしたが、それぞれが思い思いに楽しめたと思います。帰りのバスでは疲れも出て寝る人や、車内で流されていたDVDを真剣に見る人と過ごし方は様々でしたが「楽しかった」「また行きたいです」の声を聴き一安心しました。次回以降はスケジュールに余裕を持った計画が立てられるよう工夫できたらと反省する結果でしたが、楽しんでもらえるイベントを考えていきたいと思います。

スウェル 森矢圭吾



技術向上へ挑む マイスター検定



OWNパスでは、毎年9月と3月に独自の「マイスター検定」を実施しています。今年度も、たたみ・汚れ落とし・プレスの3部門で試験が行われました。たたみマイスターにはスタッフ9名全員が挑戦し2名が合格。汚れ落としは2名、プレスは4名が合格しました。日頃から技術向上を目指して練習を重ね、資格取得を一つの目標として努力してきた成果が実を結んでいます。マイスター取得者は各作業の最終チェックを任される重要な役割を担い、また資格取得者はボーナス支給の対象となり、取得数に応じて支給額も増えるため、スタッフのモチベーション向上にもつながっています。筆記と実技の両方に合格して初めて得られる資格であり、努力が確かな形で評価される制度です。

OWNパス 松江珠里

お花で癒しの空間

2F テラスのプランターに4月上旬お花を植えました。その翌日に暴風と大雨であつという間に花びらがほぼ落ちてしまいました。少し日差しがきつくなってきた5月に再び利用者さんと一緒に植え替えました。リベンジを誓い、「今度こそ、長く咲かせたいですね」、そんな会話をしながら、ひまわり、マリーゴールド、メランポジウムなどたくさんのお花を植え、パッと明るくなりました。毎日利用者さんが水やりをしてくれていてみんなで育てています。テラスには日除けの parasol と椅子を置いています。色鮮やかなお花を眺めて癒される空間になりました。

スウェル
細川孝行



リレーイッセイ

スポーツってえいのう～

気がつけば我が家の毎日はスポーツ中心になっていました。長女は陸上(砲丸投げ)・長男はサッカーをやっており部活や練習日以外にも自主練に励む日々。成長していくにつれ目標や夢ができ、そこに向かう為に努力する姿はとても眩しく私自身も刺激をもらいます。仕事終わりに時々一緒に練習する時間がとても有意義に感じ、前まではイカ釣りが趣味だった私も今



では子どもたちの試合を見る時間が一番の楽しみです。自己ベストがでた瞬間や仲間と頑張っている姿を見ると思わず胸が熱くなりもうたまらん！ただ上手いかないことも勿論あるのでそういった時に「どうしたらえいろう？」と気軽に頼ってもらえる父でいられるようにこれからも共に歩いていきます。スポーツってえいのう～！

スウェル
齋藤章人



OB 座談会

今回、生活訓練利用者に向けた施設内 B 型見学 & OB 座談会を企画しました。B 型で行われている作業や利用者を見学させていただき、その後生活訓練を利用して B 型に移行された OB を招待した座談会で意見交換を行いました。普段聞けない利用者の生の声を聞くことができました。



利用者コメント

クリーニング科

- ◎楽しかったです。
- ◎いろんな話が聞けて、いい経験になりました。

軽作業 1

- ◎いろんなことが知れてよかったです。
- ◎いろいろ話が聞けて楽しかったです。

軽作業 2

- ◎作業という仕事が自分に大事にされ輪をつくるという毎日を大切に思い後輩がいることに感謝したいと思います。「OB 座談会」を開いて下さってありがとうございました。
- ◎ OB 座談会と聞いて私に話すことがあるのかなあと心配していましたが、何とかポツリポツリと話せて参加することができて良かったなあとと思っています。
- ◎ひさしぶりの生活訓練でしたが、色々な人とおしゃべりできてとても楽しかった。
- ◎座談会ではあまり発言できなくてうまくできなかったけど参加出来て良かったと思っています。



生訓利用者

- ◎初めて話す人もいて楽しかった。またやりたい！
- ◎刺激になってよかった。
- ◎早く B 型に行ってみたいと思った。
- ◎ B 型の仕事のイメージがついて良かった。
- ◎あまり接点がない人達と話ができてよかった。
- ◎ B 型の仕事を知れてよかった。
- ◎他の部署の人と意見交換できてよかった。
- ◎おいしかった。
- ◎工賃の事が聞けてよかった。

職員コメント

生活訓練利用者の皆さんが“働くこと”をより身近に感じるきっかけとなり、就労継続支援 B 型について知っていただく貴重な機会となりました。利用者同士の率直な声の交換から、多くの学びと気づきが生まれた座談会でした。

生活・訓練部 井上颯星

GH 世話人

趣味について

私は趣味でパッチワークをしています。15 年ほど前に同僚が手芸屋さんでパッチワーク教室をしていると教えてくれたのがきっかけで始めました。パッチワークの先生が室戸市で教室をしている関係で定期的に室戸市まで通って教えてもらっています。作品作りは大きいものだと半年以上かかることもあります。少しずつ形になっていくことが楽しく、県立美術館での展示会を目標に毎年頑張っています。今でも先生に細かく教えてもらいながら作製していますが完成した作品を見るととても達成感を感じています。パッチワークは生活の一部になっており、これからも続けられる限り続けていきたいと思っています。



就労継続・地域部 岡本雅代

3行日記、はじめました。

3行日記という日記をご存知でしょうか？

その日に感じた「良くなかった事」「うれしかった事」「明日やりたいこと」を3行ほどの短い言葉で書き残す日記です。気軽に続けやすく、自分の気持ちを振り返るきっかけにもなります。就労継続支援B型では、印刷科利用者の山崎睦美さんからの提案をきっかけに、この3行日記を試行的に始めてみました。

実際に取り組む中で、利用者さんの日々の思いや小さな変化が見えやすくなり、普段の関わりだけでは気づけなかった一面に触れることもありました。支援員との会話につながる場面もあり、これから身近なコミュニケーションツールとして大切にしていきたいと思います。

■【山崎さんからのコメントです】■

日記を通じて、日々のもやもやが少しでも減って、その人らしい楽しい毎日をごせるお手伝いになったらいいなと思います。

就労継続・地域部
岡村敬世



日記を持つ山崎さん

『あゆみ』倉庫市に参加して

徳武産業 あゆみ倉庫市に西岡センター長、田村PTと参加してきました。「あゆみの靴」は装具を付けた利用者さんに日ごろから大変お世話になっています。「あゆみ」の靴は利用者はもちろん、実は職員にも大人気、履いて納得の快適さがあります。この倉庫市に地元や市外から1000人を超える来場者がありました。このイベントを盛り上げるため、私たちはハンドマッサージのブースを設け、癒しを求める来場者さんで大盛況でした。終了間際まで“手”が止まらずうれしい悲鳴！

会話も弾み、ちょっとした体の悩み相談の場になりました。この日、あゆみの靴キャラバンのお披露目もあり、当センターへの訪問も予定されています。生活・訓練部 大上美幸



季節の花



トサミズキ、カーネーション、ストック、シンビジウム、スカシユリ、アルストロメリア、ユーカリポポラス、プブレウム、キノブラン

生け花担当職員 小松 香

利用状況

ハビリテーリングセンター

- 2026年5月の見学件数
..... 8件
- 5月の1日あたりの平均利用者数
(小数点第二位以下は四捨五入)
- 自立訓練
 - ・機能訓練(定員20名)… 18.5名
 - ・生活訓練(定員10名)……9.1名
- 生活介護(定員10名)
.....8.5名
- 施設入所支援(定員40名)
..... 33.9名
- アルパーテ
 - ・就労継続支援B型(定員40名)
..... 39.7名

はるのハビリホーム(定員36名)

- ・グループホーム..... 28.5名

ウェーブ

- 2026年5月の見学件数
- オウパス 2件
- スウェル 1件
- 5月の1日あたりの平均利用者数
(小数点第二位以下は四捨五入)
- オウパス(定員10名)6.3名
- スウェル(定員40名) … 34.9名

編集後記

今号も広報誌をご覧くださいありがとうございます。春から初夏へと季節が移り変わりが心地よい時期となりましたが、春先は花粉、これからは猛暑など体調管理にも気を配る時期でもあります。そんな中でも、利用者の皆様の元気な様子や笑顔に日々励まされています。そういった様子を今号もお伝えできていれば幸いです。次号もお楽しみに！

R.H